



“いま、和真心のとき”

フォーラムたより

2024
4月号
No.63

首都圏布教御礼祈願祭を迎えるにあたって

一教独立と首都圏布教 副議長 岡本真美

教祖生神金光大神様の「東三十三ヶ国は私が広める」との東方伝道の誓願のもと、このお道は一八七五(明治八年)年に大阪に伝わりました。続いて「ハヤクヤルガヨロシ」との金光四神様の御神命をいただき、一八八八(明治二十一年)年には首都東京に金光大神広前が開かれたのでした。しかしながら、この時は未だ「神道金光教会」と呼ばれており、神道本局の一派として時の政府から認可を得ていたに過ぎませんでした。

このお道が「金光教」という独立した宗教として公に認められたのは、東京布教開始から十二年が過ぎてからの事でした。それまでの間、直信・先

2024年度首都圏布教御礼祈願祭
六月九日(日) 午前十一時より(教団独立記念堂) 午後



於 東光園 (雨天決行)

覚・先師の方々は、首都東京での布教に関わり「東京が本部か、本部が東京か」との金光四神様のお言葉の意味するところ、すなわち「政府のお膝元である東京で、不都合不祥事が起れば、その影響は日本全国に及んでしまうということを中心得るべし」を布教活動の中心に据え、身を賭して首都圏布教に邁進なされたことを忘れてはならないのです。

一八九九(明治三十二年)、東京において独立請願団が神道本局との話し合いを持った結果、晴れて独立への道筋が整います。続いて政府との度重なる折衝を経て、一九〇〇(明治三十三年)年に神道金光教会は一教独立を果たして金光教と名を改め、教祖金光大神様がお示し下さったお道を名実共に世に伝える事ができるようになったのです。

東京布教四十年にあたる一九二八(昭和三年)、「東京布教の由

来を永世に残す」との願いのもと、御霊地に東光園が開かれました。園内には、東京布教功労者の御霊様をお祀りした崇徳堂と東京布教の精神を記した碑が建てられ、その前で祭典が仕えられたのでした。

皆様には、日頃より金光教首都圏災害ボランティア支援機構(以下、支援機構)の活動にお祈り添えご協力ありがとうございます。

石川県能登半島を襲った大地震により、亡くなられた二四〇名を超える御霊様のお道立てと被災された多くの方々

の立ち行きを共にお祈りしてまいります。支援機構では、三月八日から十一日にかけて現地に向き、関係各所と話し合いを進めつつ、被災した七尾市、輪島市、志賀町、内灘町を回り、状況把握を行うと共に、今後の活動について準備を進めてまいりました。

被災地ではボランティアの数が足りず、発災当時のままの地域が少なくありません。崩落した道路、地震により倒壊した家屋、液状化による地面の波打ちにより傾いた家屋、大規模な火災により焼失した地域、津波被害を受けた地域など、三ヶ月が経った今日でも復興の目処が立たず、時の止まった状況が続いています。

今後は教内の関係団体である「一般社団法人ひかりプロジェクト」と協働し、金光教富山教会近くに活動拠点・ボランティアの宿泊場所を確保し、石川県七尾市およびその周辺

金光教首都圏災害ボランティア支援機構より 能登半島地震被災地支援 今後の活動計画について

で活動をしていく予定です。しかしながら、現地の体制が整うまでにはしばらく時間がかかると見られ、当面は支援機構とひかりプロジェクトの



春高バレーの応援報告
一月五日、渋谷区にある東京体育館で金光学園は、大阪府昇陽高等学校と大



スタッフを中心に活動を進めていきます。状況が整い次第、広くボランティアを募集したいと考えています。その折にはぜひご参加ください。支援機構の活動あるいは今後の活動の見通しに関するお問い合わせは、宮田(本所教会)03・3631・1442までお願いします。

(支援機構事務局長 宮田和弘)

当支援機構の活動は皆様からの支援金によって支えられております。募金にもご協力下さいますようお願い申し上げます。

支援金の受け入れ口座は左記の通りです。

みずほ銀行本郷支店 普通預金
口座番号 2765405

「金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構」

※教会として振り込まれる場合は、「〇〇キョウカイ」と(金光教を抜いて)教会名を明示してください。また個人の場合は、「氏名 教会名」の順で記名してください。

健闘の末、今一步力及ばず終戦となった。残念な結果ではあったが最後まで諦めない選手たちと、彼らを支える応援団に、心からの拍手と賛辞を送りたいと思う。感動は試合の結果ではないということを知った。

ありがとう！金光学園バレー部。来年も春高バレーに出場してくれることを願っている。

(報告・湯川光信)

首都圏各連合会より

茨城・栃木教会連合会

新型コロナウイルス感染症の脅威に世界中が震撼させられてから四年が過ぎ、昨年五月に法律上の位置づけが変わって初めての新たな年を、昨年までよりは明るい心持ちで迎えられたかに思えた其の日に起こった大きな災害。国の内外で難儀に見舞われていた数多の人たちの助かり立ちゆきを祈るとともに、私たち一人ひとりの手もと足もとで出来ることを考え、取り組んでいくことが大切だと感じています。

連合会の活動目標としては、引き続き「ひとり一人が地域・社会のお役に立つことを通じて、お道による助かりの輪を広げる」を定めました。指針として「背中が示すおかげ(助かり)の事実。論より証拠、口は塞いで指で差す」を掲げ、「信心する者は、神の話を聞いて納得したら、第一に、自分が見てみせて、それから言い聞かさなければならぬ。口ばかりの先生ではうちの者も聞かないし、神にも相すまないことになる。」が実践できる

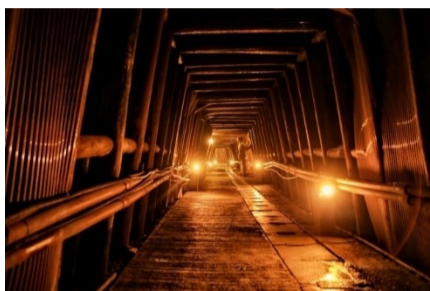
よう、銘々で稽古を重ねて参ります。

群馬・埼玉教会連合会

群馬連合会は昨年十二月六日に信徒部主催で信心共励会を開催し、西方新太郎さん(大宮)、杉村昌彦さん(所沢)にお話を頂きました。お二人ともお父様からの信心の教えの大切さをお伝え下さいました。

令和六年度の「群馬のつどい」は、当初「SDGs 14・海の豊かさを守ろう」の観点から海に行くことを計画していましたが、遠いため断念し、足尾銅山見学を予定しています。

足尾銅山が発見されたのは、西暦一六〇一年ごろと言われています。鉱石を粉碎して精銅を行



足尾銅山の坑道

江戸城などの銅瓦に使用され、オランダなどへ輸出された。明治の

頃には生産量が急伸し日本最大の銅山になりましたが、それに伴い銅・鉛・亜鉛・ヒ素・カドミウムなどの金属成分が、鉱内から出る水や選鉱場から出る水とともに渡良瀬川に流れ込んで下流の農地を汚染し、日本初の公害事件が起きました。今回の見学を通して、SDGsの観点から得るものがあればと考えています。

茨城・栃木連合会との合同教師研修会は、八月三十日に小山生涯学習センターで行う予定です。本教の信心の課題として「めぐり」「運命」「宗教二世」をキーワードに研究します。講師は教学研究所部長の高橋昌之先生です。群馬は昨年「カルト宗教と宗教二世問題」で研修をしました。前回と関連しているテーマで行いたいと思います。

千葉県教会連合会

二月四日、千葉県連の信心目標「原点を頂くー恩を知り、恩に報いるー」をテーマに共励会が三年ぶりに浦安布教所にて午後一時〜四時に開催されました。普段は参加しにくい方々にも信心を語り合ってもらえるよう、各教会持ち回り制。今回の参加人数は十五名(教師

六名)となりました。

前半三十分は浦安布教所の進藤寛子師が「浦安に布教所を出すに至った、両親の信心の原点や本人が母の介護で『神様の思いを分からせてください』と願ったことから道が開けた」との話と質疑応答。

後半は柏教会教会長の「神様が大好きだった」という長井美芳師による講話。「昨年布教五十周年を迎えた布教の原点。教祖様の四十二歳の大病後「神様の仰せ通り」と御修行された事跡を学び『お礼の稽古が一番』と修行された」とのお話と、質疑応答が行われました。

それぞれの講話と質疑応答で参加者の信心が深まることを願って終了しました。



長井美芳師

東京都教会連合会

東京都教会連合会は、一月二十七日(土)銀座教会を会場として年頭集会を行いました。

年頭集会は都内の教会の教師・信徒が集う都連の年始の伝統的行事で、その年御本部で教師任命

四十年の褒賞を受けられる先生方を筆頭に、五十年・六十年・と十年毎の節年を迎えられた先生、そして新たに教師に任命された先生、更には新任教会長等に対して連合会あげてお祝いやご紹介をし、その後記念講話を拝聴する集会です。

コロナ禍では参加はせず、東京センターからリモートで開催してきましたが、今年は四年振りに五十五名が集い、久しぶりに年頭集会らしい集会が行われました。

記念講話「わが信心を語る」は、今年教師五十年を迎えた園部正人師(立川教会長)が、父親である碑文谷教会初代教会長園部正春師から願われた「立川布教」について、ご自身の体験を講話されました。

集会の最後には、各団体からのインフォメーションがあり、今年の主要行事の案内等が紹介されました。

その後、会場を教会近くのお店に移し懇親会を開催。三十名が参加し、東京都教会に欠かせない「連帯」を図りました。

神奈川・山梨教会連合会

当連合会では、今年も「世界の平和と人類の助

かりを目指し、信奉者が広く連帯して、お道展開の活動を進めよう」との基本方針のもと、「お道の仲間をつくらう」「信心を高めよう」「次の世代になげよう」「信心の喜びを伝えよう」との願いで活動を進めていきます。

特に今年には山梨県で布教が始まって百三十年になります。そこで、六月十五日十六日に記念の「山梨集会」を開催します。初日は「信心の喜びを語る」をテーマに研鑽し、二日目は山梨県立美術館や信玄ミュージアムなどを見学して交流します。

その他、信徒部は、女性のつどい、グラウンドゴルフ大会、講話と夕食の会を、教師部は、定期講話、教師会、ひらぎの会(教会家庭女性の会)を予定しています。活動については、連合会だより「かりん」やホームページで随時広報してまいりますので、ぜひご覧ください。

ホームページ：
<http://www.kyokairengo-kai.jp>



昨年のグラウンドゴルフ大会